

乾政官符 (原文)

應^三畿内七道諸國驛路兩邊遍種^二果樹^一事

右東大寺普照法師奏狀称。道路百姓來去不^レ絶。樹在^二其傍^一足^レ息^二疲乏^一。夏則就^レ蔭避^レ熱。飢則摘^レ子喰^レ之。伏願。城外道路兩邊栽^一種菓子樹木^一者。奉^レ勅。依^レ奏。

天平宝字三年六月廿二日

乾政官符

(読み下し・飯塚)

* 乾政官・七五八年〜七六四年までの太政官の称呼

畿内七道諸國の驛路の両辺に遍く果樹を種るべきこと

右は東大寺の普照法師が奏状を称う。

道路は百姓の來去絶えず。樹は其の傍にあつて疲乏の息を足らし、夏は即ち蔭を就け熱を避け、飢えたるときは子を摘み之を喰らう。

伏して願うは、城外の道路の両辺に菓子樹木を栽種る、といえり。

勅を奉まわること、奏に依る。

天平宝字三年六月二十二日